

I. 第 46 回 大 会 に つ き ま し て

軽部勝一郎（甲南女子大学）

全国地方教育史学会第 46 回大会は甲南女子大学で開催いたします。2020 年の第 43 回大会を本学でお引き受けしておりましたが、開催直前に突然にあらわれた新型コロナの影響を被り、開催を断念する事態となりました。2021 年はオンライン開催、2022 年は現地開催と、三上前事務局長のご尽力で大会が維持されました。とりわけ昨年札幌大会は、コロナ禍にあって現地での開催を敢行した意義ある大会でありました。研究をめぐり対面で協議することのありがたさをあらためて感じる機会となりましたし、本学会ならではの史料見学会も再開され、「開拓使文書」をはじめとする北海道の貴重な資料を間近に見る興奮を味わいました。今大会も札幌大会のバトンを受け継ぎ、現地開催ならではの「満腹感」を会員みなさまに味わっていただけるよう努力して参りたいと思います。

このたびの神戸での大会で特筆すべきこととして、懇親会の復活が挙げられます。コロナ禍の状況の変化に加えまして、幹事の方々の後押しもあり、灘の酒をみなさまに味わっていただく機会を設けました。数ある灘の酒のなかでも定評ある「櫻正宗」を、蔵元が直営するダイニング「櫻宴」で味わっていただきたいと思っております。この宴席が、コロナ禍の苦労を互いに労い、ポストコロナへの展望を語りあう機会になれば幸いです。

神戸は 28 年前の阪神淡路大震災で大きな被害に遭いました。震災を機に資料レスキューの必要性がクローズアップされましたが、資料レスキューの牽引者のおひとりである神戸大学の奥村弘さんを迎えて、シンポジウム「地域の教育史資料の収集・保存・活用」が開かれます。野口穂高幹事の企画のもと、大学史資料に造詣の深い小宮山道夫会員、小学校長として学校資料の保存にあたってこられた知本康悟会員、そして奥村さんとの間で展開される議論は、教育史資料保存のありようを考える契機となるものと期待しております。

史料見学会の会場である甲南大学は、震災の際に極めて大きな被害を出した高等教育機関の 1 つです。学生をはじめとする関係者 37 名が亡くなり、旧制甲南高等学校の遺構である 1 号館など 5 棟の建物が全半壊しました。困難な状況のなか、全半壊した建物から旧制高校以来の学校関係資料が運び出され、旧制高校設立関連文書などの貴重な資料が今日に残されました。史料見学会では、震災を乗り越えた資料の数々と、学園創設に大きな役割を果たした平生夙三郎の日記原本などを、実際に手に取って閲覧できるようお願いしております。甲南大学ではこのほど『甲南学園の 100 年』を上梓しました。同書には震災時の学園の状況が具体的に記述されています。現在のキャンパスには震災の記憶を留めるものはほとんど残されておりませんが、保存資料を実際に手に取ることで、困難な状況下に資料の保存に努めた関係者の努力に思いを馳せたいと思っております。

今大会でなにも増して特筆すべきことは、14 名もの会員みなさまが発表にエントリーしてくださったことです。現在本学会は会員数の減少に直面しております。幹事を中心に WG を組織し、会員の減少を食い止めるための方策が話し合われておりますが、14 名のみなさまがエントリーしてくださったことは、本学会にとってなによりの光明でしょう。

新型コロナウイルスに翻弄された 3 年間でしたが、コロナ禍以降の地方教育史研究に見通しを持つことのできる機会として、神戸での大会が役割を果たすことを願っております。みなさまのお越しをお待ち申し上げます。

※初日の史料見学会は「甲南大学」、二日目の研究発表・シンポジウム・総会は「甲南女子大学」で実施します。会場が異なりますのでくれぐれもお間違いのないようお願いいたします。アクセスの詳細はプログラムをご覧ください。

※なお初日、二日目ともに駐車場のご用意はございません。自家用車でのお越しはご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

全国地方教育史学会第46回大会プログラム

大会日程表

5月27日（土曜日） 大会初日 甲南学園史資料室、ダイニング「櫻宴」	5月28日（日曜日） 大会2日目 甲南女子大学10号館
<p>14:00 甲南大学岡本キャンパス中庭 平生鈆三郎胸像前に集合。</p> <p>※胸像の位置はキャンパスマップでご確認ください。 https://www.konan-u.ac.jp/life/campus/#link1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲南学園史資料室：旧制甲南高等学校ならびに同校創立者平生鈆三郎等に関する展示の解説・観覧。 ・キャンパス内の歴史的遺構を見学。 ・資料収蔵庫：甲南学園100年史編さん事業ならびに震災後の資料保存に関する解説、収蔵庫保存資料（旧制甲南高等学校ならびに平生鈆三郎関連の資料）の閲覧。 <p>16:00 終了。タクシー、公共交通機関等で懇親会場に移動。</p> <p>18:00 懇親会開始 「櫻正宗」の蔵元直営のダイニング「櫻宴」。</p> <p>20:00 懇親会終了。</p>	<p>8:30：受付開始（1階エントランス）。参加費無料につき年会費（¥4,000）のみ。</p> <p>9:00：研究発表（1034、1035、1061教室）。</p> <p>12:00-13:00：休憩。なお、各教室は飲食不可（給水は可）につき、昼食は会員控室（2階 CloverCommonsA）にて。 〔※12:00-13:00：第1回全国幹事会・常任幹事会（2階 CloverCommonsB）。〕</p> <p>13:00-15:20：公開シンポジウム 「地域の教育史資料の収集・保存・活用」（1035教室）。</p> <p>15:30-16:00：総会（1035教室）。</p>

◎大会初日の史料見学会のみ、甲南大学岡本キャンパスにて開催します。甲南大学には喫煙所があります（場所は当日ご案内します）。

◎懇親会は、「櫻正宗」の蔵元直営のダイニング「櫻宴」で開催します。懇親会費は一般会員7,000円、院生・非常勤講師会員3,000円を予定しています。

◎大会参加費は今年度のみ無料、年会費（¥4,000）は大会2日目に受付で申し受けます。準備の都合上、「資料見学会」「懇親会」「研究発表」への参加の有無について、5月12日（金）迄に大会校（軽部勝一郎：kkarube@konan-wu.ac.jp）へご連絡下さい。メールのタイトルは「地教史大会参加」として下さい。

◎大会2日目は、甲南女子大学で開催します。初日と会場が異なりますのでご注意ください。2日目は学内の売店・食堂が営業しておらず、大学至近にもコンビニや飲食店はありません。あらかじめ昼食を確保してお越しください。最寄りのJR甲南山手・摂津本山・芦屋の各駅改札前にコンビニがあります。阪急岡本駅梅田方面行ホームにも小規模ですがコンビニがあります。

研究発表 9:00-12:00 第2会場:10号館3階1035教室

司会:板橋孝幸(奈良教育大学)・高橋陽一(武蔵野美術大学)

- (6) 9:00-9:30
国民学校令下の名古屋市における養護学校の成立
—私立南山小学校から名古屋市八事国民学校への転換に着目して—
林喜子(奈良教育大学)
- (7) 9:30-10:00
国民学校における映画教育実践:新潟県関屋国民学校の事例
森田智幸(山形大学)
- (8) 10:00-10:30
「戦時教育令」の成立と教育の崩壊過程に関する一考察
—地方への浸透過程を中心に—
斉藤利彦(学習院大学)
- (9) 10:30-11:00
戦時教育令下における国民学校教育実践—「学校日誌」を手がかりに—
前田一男(立教大学名誉教授)
- (10) 11:00-11:30
東京航空計器株式会社(川崎市)への水沢高等女学校3年生の勤労働員
逸見勝亮(北海道大学名誉教授)
- ◎ 11:30-12:00
全体討論

研究発表 9:30-12:00 第3会場:10号館6階1061教室

司会:三上敦史(北海道教育大学)・吉川卓治(名古屋大学)

- (11) 9:30-10:00
官吏たりうる資格の限界—埼玉県における最低俸給額未滿の判任文官の銓衡任用
池田雅則(兵庫県立大学)
- (12) 10:00-10:30
一九三〇年代の京都府における「小学校教員無試験検定認定校」の認可過程に関する試論—京都府立京都学・歴彩館および旧認定校における史料調査の可能性を探る—
遠藤健治(美作大学)
- (13) 10:30-11:00
阪神間における実業層による中等教育機関の設立過程
加藤善子(信州大学高等教育研究センター)
- (14) 11:00-11:30
神宮皇學館の教育機関としての発展に関する一考察
—専門学校・大学への展開を中心に—
雨宮和輝(早稲田大学)
- ◎ 11:30-12:00
全体討論

テーマ：「地域の教育史資料の収集・保存・活用」

パネリスト：奥村弘（神戸大学・歴史資料ネットワーク／非会員）
小宮山道夫（広島大学）
知本康悟（元新潟県公立学校教員）

司会：野口穂高（早稲田大学）

・趣旨：地方の教育史資料は、地域の人々が教育にいかに向き合ってきたのか、その姿勢を残すものでもあり、地域で暮らす人々の固有の成長の軌跡でもある。とりわけ、各地方においては、中央政権の政策と連動しつつも、地理、文化、経済、住民の意識など地域特有の実情に応じて、多様で豊かな教育が展開されてきた。また、厳しい地理的環境や経済状況等々、地域ごとに抱える困難さとも対峙しながら、地域ならではの教育のあり方が模索されてもいる。こうした各地域における教育について、その地域性や特殊性に注目し、固有の価値を明らかにするとともに、これらに共通する普遍性についても分析することで、私たちは今後の教育に向けた数多の示唆を探り得る。ゆえに、地方教育史研究の基礎となる在地の教育史資料の収集・保存・活用は重要な意義をもつ営みといえる。

しかし、近年では、地域の教育史資料の収集・保存・活用について困難な状況が顕在化している。たとえば、地域の教育を担ってきた義務教育段階の学校の統合や閉校が増加し、所蔵する学校文書や各種の記録の散逸・廃棄が危惧される。加えて、地域の教育史資料は民間所蔵のものも多く、その所在や保管の状況を継続的に把握することも難しい。こうした地方教育史資料の散逸や廃棄は、地域で展開された豊かな教育の記録の喪失でもあり、教育史研究ひいては教育界への損失も計り知れない。また、コロナ禍では、感染症対策のため公文書館・資料館が休館となったり、資料の利用が制限されたりする状況が生じたほか、教育現場に出向いての資料収集が難しい状況が続く。この他にも、2005年に完全施行された「個人情報保護法」により、教育史関連の資料の利用において制限がかかることも多々ある。

さらに、現代における教育記録の保存においても困難な状況が見られる。たとえば、今まさに渦中にあるコロナ禍では、学校の取り組みや行政における各種の対策に関し、後世に記録として遺すべき資料が多数作成されている。しかし、感染症対策で調査・研究活動が制限される中で、関連諸機関及び研究者双方においてこうした資料の収集・保存について多くの障壁が存在する。また、教育現場では、教育活動に使用される教材や、事務文書の作成・管理における電子化が進む中で、紙媒体の文書ではなく、電子資料がその中心へと移行しつつあり、こうした電子化された教育資料の保管・収集の方策の整備も急務と考えられる。

とりわけ、地震や津波などの災害時には、過去の史料の保存及び、現代の状況の記録と保存が同時に求められる。また、大規模災害では、教育機関や公文書館・資料館、民間の家屋が被災し、公的機関や個人所有の史資料の破損・散逸が広範囲に生じる可能性があり、これらをいかに防止するか、日頃の関連諸施設や人々の取り組みが重要であろう。こうした状況において、資料の保存方法や活用方法に対する関心も高まり、各施設でも種々の対策が進められてきた。特に、1995年に発生した阪神・淡路大震災は、文化庁や阪神大震災対策歴史学会連絡会（歴史資料保全情報ネットワーク）によるレスキュー事業が広く展開されるなど、大規模災害時の被災資料や文化財の救出事業が本格的に開始される契機に位置付けられている。震災後も、先の歴史資料保全情報ネットワークを改組した「歴史資料

ネットワーク」を中心に、ボランティアによる災害時の資料保存・収集が継続的に取り組まれており、このような資料保全の動きは他の地域にも広まりつつある。会場校である甲南女子大学でも、震災を経験した神戸の大学ならではの支援として、東日本大震災後の2012年から復興支援イベントや講演会を継続して開催するなど、兵庫県や神戸市は日本の歴史資料の保全において大きな役割を果たしてきた地域といえる。また、先述のコロナ禍においても、21年以降は、史資料の電子化やオンラインによる利用方法が整備・拡充されるなど、新たな活用方法の探究が続けられている。

地方教育史資料の収集・保存・活用における困難さが顕在化する状況や、一方で資料保存・活用に向けた取り組みが進展しつつあるなかで、今後は地域の教育史資料の新たな収集・保存・活用の方法を模索し、より一層充実させることが重要と考えられる。また、先に述べたように、本大会が開催される兵庫県は、歴史資料の保全・活用とも関係が深い。そこで、本シンポジウムは、地域の教育史資料を遺すことの意義を再確認し、今後の方策を探る機会としたい。具体的には、地域の教育史資料保全に係わる民間団体の会員や地方教育史の研究者らにより、在地の教育史資料の収集・保存・活用、また現代における教育資料の保存について現状と課題を報告いただくとともに、地方教育史研究に携わる人々の研究交流・連携に向けたネットワークの構築や、資料の収集・保存・活用についてのノウハウの共有など、今後の取り組みについて展望を示す。(文責：野口)

総 会	15 : 30 - 16 : 00	会場 : 10号館3階1035教室
-----	-------------------	-------------------

議事案

会務報告

『地方教育史研究』編集規程・投稿規程の改定案

2022年度決算案

2023年度予算案

その他

全国地方教育史学会 事務局

〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28-20

東洋大学文学部教育学科 須田将司 研究室内

TEL/FAX 03-3945-7378

E-mail (3月中旬～4月中旬暫定) massatucasa@gmail.com

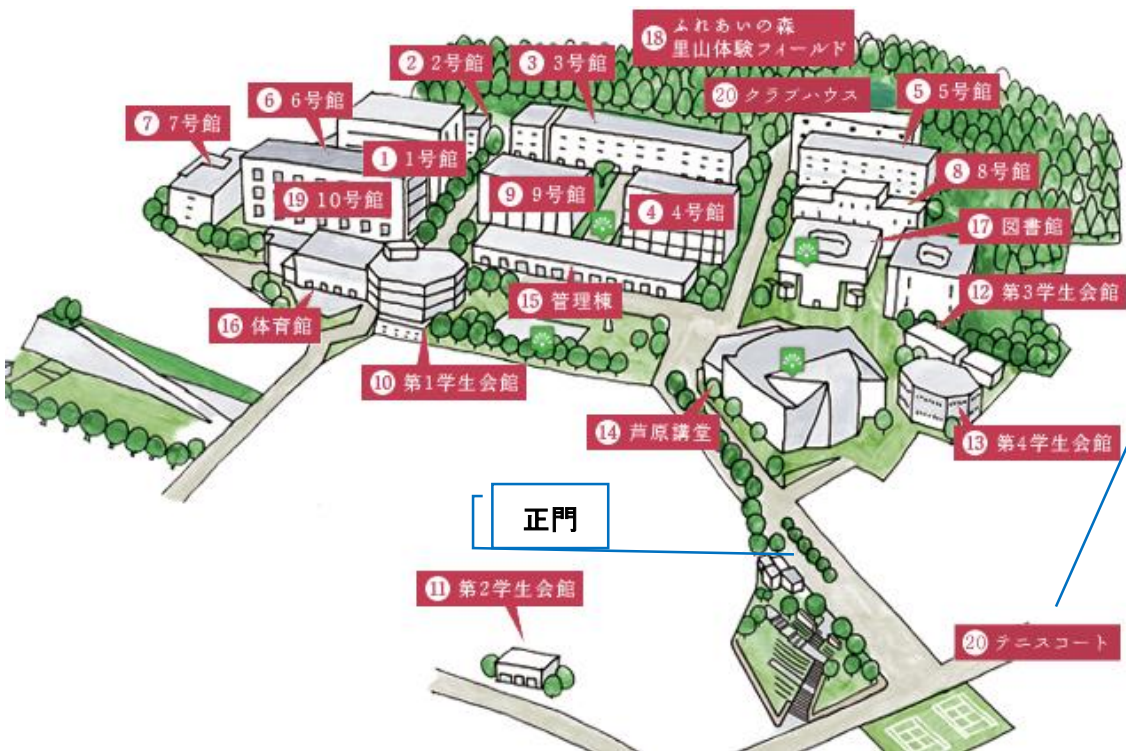
公式 HP <https://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>

初日 (5/27) 甲南大学岡本キャンパス



史料見学会集合場所
「平生夙三郎胸像」は
1号館前中庭にあります。

二日目 (5/28) 甲南女子大学



岡本テラスハウス前バス停

初日 (5/27) 懇親会場「櫻宴」周辺地図

